

【月経痛】は、問題の根と全身のバランスを見極めて！

月経痛の原因を考えます

西洋医学では《月経痛》は、月経痛をきたす病氣(子宮筋腫、子宮内膜症。それに機能性のものなど)の種類によって、その対処法が違ってきます。が…

いつもお話していますように漢方医学は、西洋医学と異なる見方やとらえ方をしますので、西洋医学的な病名による把握ではなく、あくまで漢方的な立場にたつと、どのような漢方的な問題点があつて《月経痛》という自覚症状がみられるかということに帰します。

漢方的なとらえ方が同じなら、その対処方法は同じということになりますので、西洋医学的な病名区分によるお話ではなく、ここでは《月経痛》としてまとめてお話をします。

一人ひとりの問題点を

検討し、対処方を考えます

漢方医学では、痛みは《不通即

痛》というメカニズムで発生するとしています。

つまり、「《気血水》の流れが通じなくなつてストップしてしまふ」と、そこに《痛み》が発生する」という意味になります。

《月経痛》の場合も、月経に伴つて痛みが発生したという状態を表す訳ですから、それが漢方的にどのような問題点があつて痛みが発生したかを、一人ひとりのケースごとに漢方的に検討して、その対処法を考えていくのが漢方医学の特徴です。

漢方で月経痛は3タイプに分類されます

《月経痛》を、漢方タイプ別に分類すると、臨床的によくみられるものには、

- ①《気滞》タイプ
- ②《瘀血》タイプ
- ③《寒証》タイプ

があります。それぞれのタイプの特徴をみていきましょう。

①《気滞》タイプ

月経前から月経時にかけて《下腹部が張つた感じで痛く、下墜感があるタイプ》です。

このタイプでは、《乳房が張る、イライラする、肋骨下から脇腹にかけて張つて痛い、胸苦しいなど》の症状が一緒にみられることが多いです。

このタイプについては、《漢方通信 No. 9「PMS」》で詳しくのべています。参照ください。

治療は、《氣》の流れをよくすることで、**加味逍遙散**、**四逆散**などがよく用いられます。

②《瘀血》タイプ

月経時に《強い下腹痛(針で刺されるような痛み、あるいは絞られるような痛みが特徴的)があるタイプ》です。

このタイプはまた、《月経時に、血液のカタマリが出ると痛みが軽くなる》というのが特徴的です。

治療は、《血》の流れをよくす

ることで、**桂枝茯苓丸**、**大黄牡丹皮湯**、**桃核承氣湯**などがよく使われます。

③《寒証》タイプ

月経前から月経時にかけて《下腹部が冷えて痛み、温めると痛みが軽くなり、冷やすと痛みが強くなるタイプ》です。

このタイプには《冷え症》があり、ふだんから《寒がる、手足が冷えている》ことが多い。

治療は、《冷え》を取除いて温めることで、**安中散**、**温経湯**などがよく用いられます。

身体全体のバランスを重視

《月経痛》では、痛みの時期・性質・部位などを漢方的に検討することはもちろんですが、漢方医学では、一人ひとりの身体全体のバランスを重視します。《月経痛》も含めて総合的にとらえて判断していくことが必要であることは申すまでもありません。